

行事に追われる秋があつという間にすぎ、すっかり冬目前です。
今回は 23 年度 7～9 月期の集計をご報告いたします。

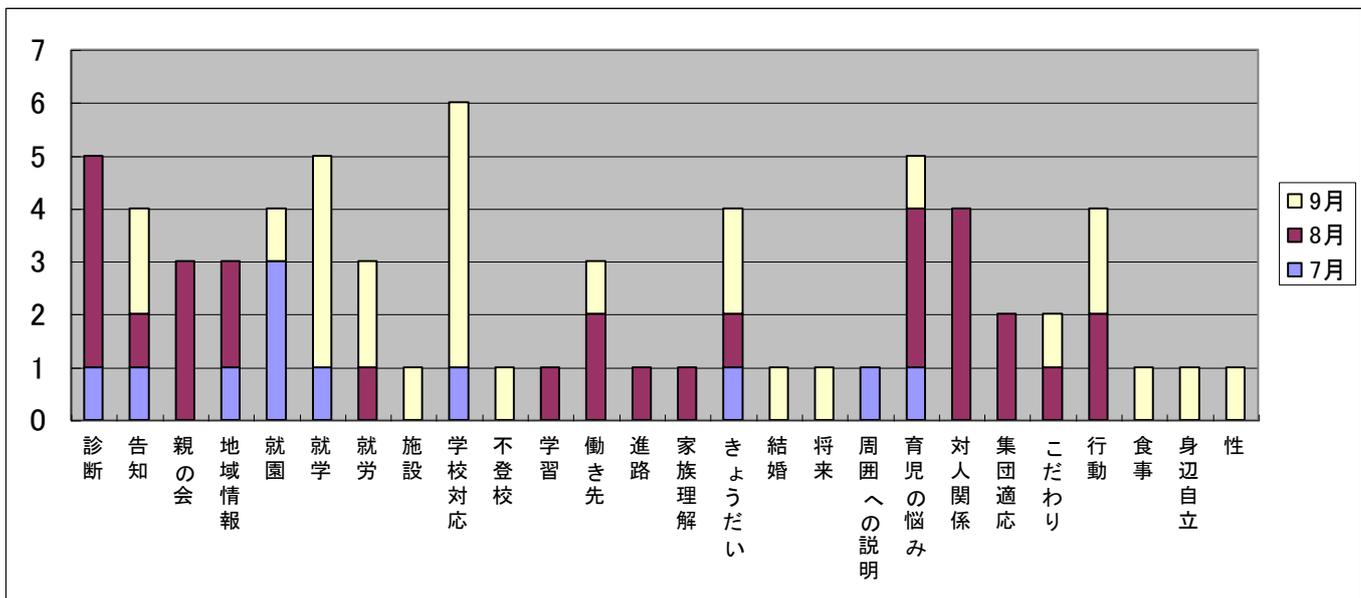


①メンター活動報告(7～9月)

	活動内容	述べメンター数	対象者数
7月2日	事例検討会①	11名	
7月2日、3日	ペアレントメンター養成研修(あいち発達障害者支援センター主催) サポートブック作成リーダー養成研修 フォローアップ研修	11名 8名	
7月4日	小学校現任研修(講師依頼)	1名	18名
7月11日	サポートブック研修(支援者向け)派遣	2名	53名
7月17日	保育士連続研修② 保護者として(講義) 擬似体験 グループファシリテーター	1名 2名 8名	
7月25日	小学校現任研修(講師依頼)	1名	14名
7月27日	県・相談支援事業者現任研修(講師依頼)	2名	64名
7月31日	SST茶話会(小)	2名	7名
8月28日	SST茶話会(小・中・高)	2名	18名
9月8日	りんくすグループ相談会	2名	7名
9月18日	SST茶話会(小)	2名	7名
9月25日	祖父母向け茶話会	2名	2名
9月27日	サポートブック研修(千代ヶ丘学園)派遣	1名	14名
9月29日、30日	家族支援プログラムサテライト②(安城) サポートブック研修 障害特性講義・擬似体験 ピアカウンセリング	1名 1名 16名	16名

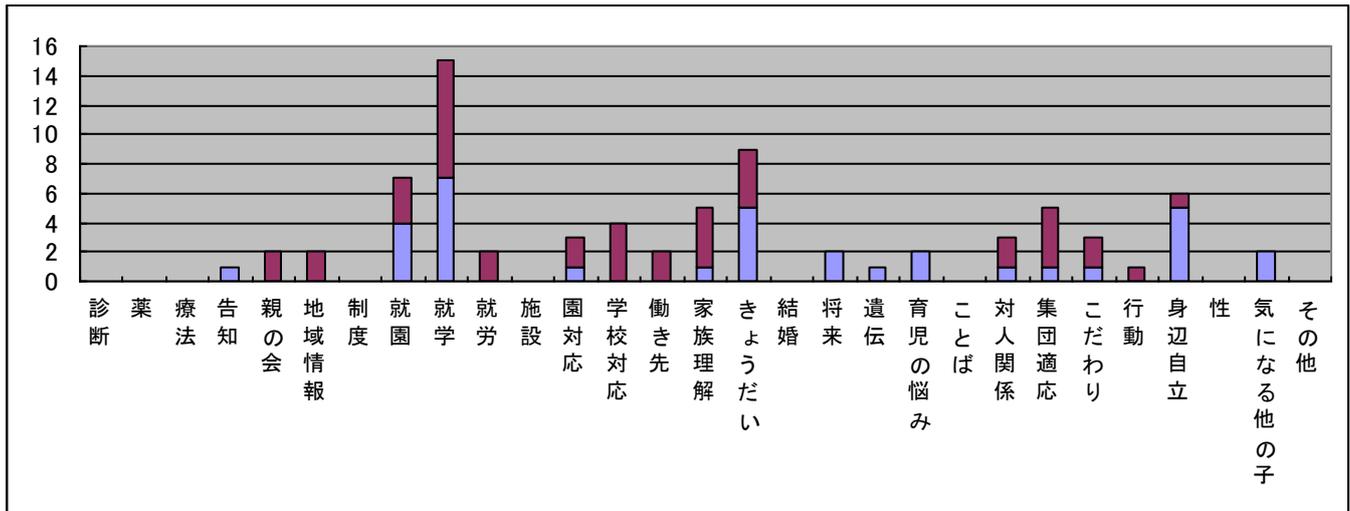
②メンター活動報告書の集計(7～9月) 10名のメンターより、31件の報告がありました。

(1)相談内容 提出された報告書より、相談項目をグラフ化しました(1件の報告で複数ある場合もあります)

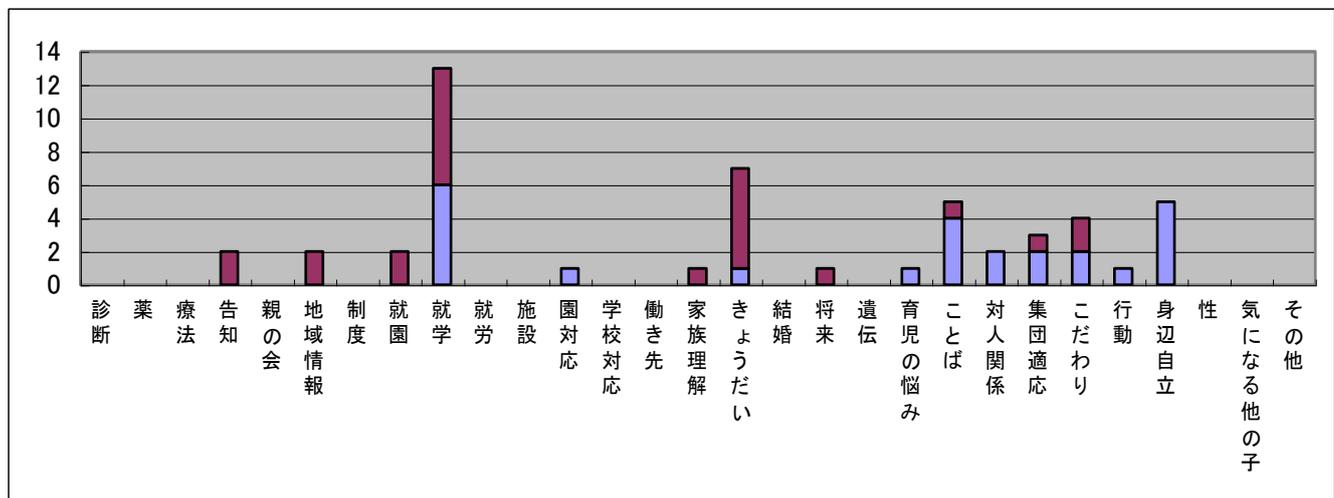


(6) サテライト報告

安城：平成 23 年 9 月 29 日～30 日



あま：平成 23 年 11 月 10 日～11 日



「親子支援プログラム・サテライト事業」(安城市)に参加して

多久島睦美(あいち LD 親の会かたつむり)

1日目のピア・カウンセリングにメンターとして初参加させていただきました。(岡田さんとペアで担当させていただきました心強かったです。)年長児の保護者さんのグループだったので、『就学についての相談になるかな?』と予想していましたが、もう既に学校見学や体験入学を済ませているとの事で、意識の高い方ばかりで感心しました。悩みとしては「学校でついていけないか不安」「子どもが大きな声を出すと、虐待だと通報されてしまわない心配」「子どもが危険なことが分からない(スリルを楽しんでいる)」「お父さんが厳しく理解がない」といった話題が出ました。グループだったので、話題の焦点が絞りにくく、お一人お一人の思いをじっくり聴くことができなかつたり、積極的に話される方と聞き役になってしまう方の差ができてしまつたり・・・、グループカウンセリングの難しさを感じました。自分自身についても「相手が話し出そうとしたのを遮ってしまった~(>_<)」とか、メンター研修で学ばせていただいたおかげで、細かい点にも客観的に気づけるようになりました。この反省を生かし、もっと丁寧に対応できるよう精進?していきたいと思ひます。今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。



③学会発表報告

8月～9月にかけて、様々な学会においてペアレントメンターがかかわる内容の発表がありました。ここでは3つのご報告をします。

(1) 日本家族心理学会第28回大会(平成23年8月26日～28日 @鹿児島)

「親子支援プログラム事業の成果」について(日本家族心理学会発表)

平成21年と22年度の発達障害者支援試行事業の際には、家族支援に関わる様々なプログラムを実施していただきありがとうございました。ペアレントメンターの皆様に快諾をいただき、その成果の一部「親子支援プログラム事業」について日本家族心理学会に発表させていただいたので、この紙面で簡単に報告します

この事業は、全体で2泊3日。心身障害者コロニーの「緑の家」で、従来より実施されている宿泊コースをベースに編成しました。①知的障害のある方のコース(平成20年12月16～18日)、②知的障害のない方のコース(平成21年2月23～25日)の2回を設定して、計13組(それぞれ6組、7組)の参加がありました。

お子さんが別プログラムに参加し、母子分離している時間帯に養育者に対して以下の3つの内容を実施しました。

【サポートブック研修】…メンターの方にサポートブックの内容や作成方法をわかりやすく解説していただきました。実際に参加者が一部を作成し、見せ合って意見を交換しました

【ピア・カウンセリング】…メンター2名が参加者3、4名のグループを担当しました。自身の体験談を話したり、参加者の話を聞いて共感したり、有用な情報の提供等を行っていただきました。

【子育て応援ノート(乳幼児期編)のレクチャー】…コロニー発達障害研究所の竹澤大史研究員(共同発表者)が担当。発達障害者支援センター作成の子育て応援ノート(乳幼児期編)を題材とする講義を行いました。療育、就園・就学、発達障害の特性等について基本的な理解を得ることを目的にしました。

結果(効果)として、参加者の「抑うつ度」が下がる傾向が、質問紙にて確認されました。またアンケートには「メンターの方々から元気をもらえた」「将来の見通しがみえてきた」など、たくさんの肯定的な意見が寄せられました。

発表を聞いていただいた先生方からは「質的な分析はどうだったのか」という質問もありました。力不足でそこまで踏み込めなかったのですが、この流れをくむ「親子支援プログラム・サテライト事業」は、現在も継続されています。幼児期の大きな混乱のなか、心を痛めている養育者の方々への大きな支援となりますので、今後ともメンターの方々のご協力をお願いします。また発表の機会を与えていただき、ありがとうございました。

愛知県心身障害者コロニー療育支援課 安ノ井 宏隆

(2) 日本自閉症スペクトラム学会第10回記念大会(平成23年9月10日～11日 @名古屋)

【愛知県におけるSST事業】

日本自閉症スペクトラム学会の自主シンポジウムで、愛知県自閉症協会でのソーシャルスキルトレーニング(以下、SST)の実践について発表してきました。企画者はSSTの指導者として関わっていただいている水野浩先生で、話題提供は、小学生グループのSSTの実践について田内由季子先生、保護者の立場からSSTに関して感じていることについて横関広子さん、そしてSSTのもつ保護者支援としての意味について小倉がお話ししました。指定討論者として、名古屋大学の吉川先生、愛知教育大学の船橋先生にコメントをいただきました。

愛知県自閉症協会のSSTでは、お子さんがSSTを受けている時間に保護者に別の部屋で集まっていただき、メンターがファシリテーターとして関わりながら日頃のお子さんの様子や悩みなどをお話しいただいています。主目的であるお子さんへのSSTと合わせて、メンターさんに入ってもらいながら保護者支援も行う。この総合的な家族支援スタイルが親の会だからこそできるSSTではないかと思っております。指定討論者の先生方、フロアの先生方からご意見をいただいて、このSSTプログラムの方向性を改めて考えることができました。

今後もSSTの充実に取り組んでいきたいと思っております。

鳴門教育大学 小倉 正義

【我が国におけるペアレント・メンター活動と展望】

今回は、9月10・11日に名古屋で開催された自閉症スペクトラム学会での発表について報告させていただきます。

まず「我が国におけるペアレント・メンター活動と展望」というタイトルで自主シンポジウムを開催しました。企画者は鳥取大学の井上雅彦先生。話題提供者は井上先生、筑波大学大学院の原口英之先生、自閉症協会の加藤香氏、名古屋大学の吉川徹先生で、ペアレントメンター活動の意義や経緯など、様々な視点から話題を提供していただきました。そして指定討論者として長野県健康福祉部の日詰正文先生にまとめと今後の課題を提起していただきました。フロアとの質疑応答を含め、活発な議論となりました。自主シンポジウムに加え、「愛知県下ペアレントメンター活動の推移」というタイトルでポスター発表を行いました。筆頭演者は加藤香氏、吉川徹先生と私が共同演者として同席しました。愛知県で活動されているメンターの方々に記入していただいた報告書をもとに、相談件数や相談内容について年度ごとの傾向などを調べ発表しました。各地のペアレントメンター関係者の方々から多くのご質問やご意見をいただき、非常に参考になりました。

今後も学会発表や論文発表を通して、ペアレントメンターの活動内容や成果を報告していければと思います。

愛知県コロニー発達障害研究所 竹澤 大史

④ペアレントメンター報告

ペアレント・メンターのベーシック講習を受けたのは、今から2年程前でした。

「ペアレント・メンター」という言葉は聞いた事があるけれど・・・程度でしたので、行ってびっくり、受けてびっくりでした。

朝から夕方までみっちりびっしり。机上講習、模擬実習。

なんでここにいるの？私・・・。

講習でお話を聞くほど、模擬実習を経るほどに沸々とそんな思いが・・・

そして、忘れることができないお言葉「傾聴と共感」日常、理性よりも本能で生きている私にできるのか？？



そんな中途半端な私なのに、来たっ！！メンターとしての出番、本番。

若いお母様に囲まれ、ペアレント・メンターとしての立場でのカウンセリング・・・

新米メンターの私は先輩メンター様の足を引っ張らぬようにドキドキでした。

お話を伺っていくうちに、お子さんの事を心から考え、将来について不安な思いを持ったお母様方の表情がす～っと晴れていくのが解りました。

なかなかこれだ！という出口のない悩みを持っていたり、就学や、幼稚園や、保育園、学校での悩み、家族の理解。本当にさまざまな思いで毎日を過ごされている方々が「何だかスッキリしました。」と仰ってくださいました。

そうだっ！！ペアレント・メンターはスッキリおばさんなんだな。

自分も子供が小さな時分に、先輩お母様のお話を伺い、スッキリしていたな～～。と思い出しました。

私はきっと恵まれていたのですが、頼りになる先輩お母様が周りに多かったように感じています。そんな私でももっと先輩お母様のお話を伺う機会が欲しかった。

ペアレント・メンターという言葉も立場の人も居なかった・・・残念・・・

そう思うと、ペアレント・メンターって大事じゃないか。私では、大したことは言えないし、悩みも解決できないけれど、何かのきっかけ作りや、ほんの少しスッキリした気持ちにもっていただけたいな。と思っています。

まだまだ、勉強不足、経験不足・・・先輩メンター様や先生方のご指導を仰ぎ頑張ろう。そう思うこの頃です。

そしてなんと！！この10月にでましたっ！ペアレント・メンター入門講座「発達障害の子どもをもつ親が行う親支援」おめでとうございます！！そしてお疲れ様です。速攻、入手しました。まだ、ざっと目を通しただけですが、とても解りやすい充実した内容で、先輩メンター様や先生方の努力には感動いたしました。これから熟読し、親として、メンターとして、再確認、再勉強したいと思います。

H23. 10 愛知県自閉症協会 橋本知代

「今回のゲストコメンテーター」

【ペアレントメンター活動とメンターコーディネーター】

今年は名古屋で行われた自閉症スペクトラム学会で、メンターのシンポジウムを行いました。その中でも養成後の活動とそのサポートや連携のあり方が課題として論議されました。全国の中でも愛知は先進地域として自閉症協会が引っ張る形で動いていますが、例えば私のいる鳥取では実情も異なります。各県各市でそれぞれの実情に応じた様々な形態があつてよいと思っています。

今年度鳥取県では、メンター運営委員会というものを立ち上げました。メンバーはメンター事務局を請け負っている鳥取県自閉症協会の人たちと私、そして県の担当部署の方、発達障害者支援センターの方などで。中核となるメンターコーディネーターは県の方から来年度申請されせる予定です。

メンターコーディネーターって何だろう？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、これはメンターの活動状況を把握しメンター活動を支援したりするマネージャーのような役割がとれる人のことをいいます。メンターがコーディネーターになっても、専門家が担ってもかまいませんが、メンターの活動だけでなく地域や地域機関の情報をよく知っており、連携がとれる人であることが必要です。この活動の中でもメンターに対する支援は困難事例の対応から研修企画まで幅広い活動のため、1人でこなすのは本当に大変です。鳥取でも事務局、運営委員会、コーディネーターと事業内容をうまく整理していかなければと思っています。

こういった各地の情報を紹介できるHPがあればいいなと思って現在計画を進めています。お披露目の際にはぜひ紹介させてください。

愛知では2月の研修会でお目にかかれると思います。今年もあと1ヶ月と半分になりましたがよろしくお願ひいたします。

鳥取大学大学院医学系研究科
井上雅彦

⑤メンター連絡会について

2011年9月16日、「愛知県ペアレントメンター等活動推進連絡会」が立ち上がりました。この会は、ペアレントメンターと行政担当者、専門家が協力して、愛知県内におけるペアレントメンター活動の円滑な活動推進を図るために設置されました。

連絡会の構成メンバーは、愛知県自閉症協会、アスペ・エルデの会、あいちLD親の会かたつむり、えじそんくらぶ なごや親の会に属するメンター、行政担当者としてあいち発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センター、そして専門家として愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所の竹澤大史先生にご参加いただいております。当面、私、吉川が会長を務めさせていただくこととなりました。関係者の皆様には本年7月から、連絡会の設置要綱の素案についてご検討を頂き、ようやく正式に発足することとなりました。

本連絡会では今後、年1回程度の会合を持ち、その他にも随時電子メールなどで連絡を取りながら、①愛知県におけるペアレントメンターの養成、研修の計画の検討、調整、②ペアレントメンター活動、特に行政が関係する活動についての計画、調整、③ペアレントメンター・コーディネーター配置についての検討などを行っていく予定です。またこのほかにワーキンググループを設置し、愛知県におけるペアレントメンター活動の倫理規定作成を行うこととなりました。

今後、この連絡会を通じて、愛知県のメンターの皆さんが、行政や専門家とも上手く連携しながら、更に活動しやすくなるよう働きかけてゆきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

名古屋大学親と子どもの心療科 吉川 徹

⑥メンターQ&A

11. 相談者になかなか答えが提供できないのですが……

<メンターより> Yes, No で答えを出さなくてはいけないという決まりはありません。むしろ、相談者ご自身でそれは決めていただくよう私達ペアレントメンターは経験談を話したり、地域の情報をお知らせしたりしていく方が相談者ご自身の自己決定力のためにもなるのではないのでしょうか。無理に答えを提示しなくても「聞いてくれる人がいる」だけで相談者側は安心できるのではないのでしょうか。



<インストラクターより> 相談者は時折、“質問”という形を取って、その背景にある気持ちを聴いてほしいと思っていることがあります。例えば、「～でしょうか」と質問しこちらに答えを求めているようで、実はそのような質問をしてしまう背景に不安な気持ちや悲しい気持ちなどを抱えていたりするものです。安易に答えを伝えるのではなく、「よければもう少し詳しくお話聴かせていただけますか」と相談者が話すことを促していく中で、気持ちが出てくるかもしれません。その気持ちに共感をしていくとよいでしょう。

12. 「次までに調べておきます」と言ったら電話番号を伝えられた。かけるべき？

<メンターより> 相談者が電話番号を伝えてきてもかける必要はないと思います。応じていると、相談者によってはどんどんリクエストしてくる場合もあるでしょう。次回相談してきた時に回答すればいいですし、答えを急いでいるようならばすぐに連絡してくると思います。



<インストラクターより> 基本的には、相談者からの電話を待ちましょう。「調べておきます」と伝えたとしても、そのときに「また〇〇頃お電話いただけますか？」と次回の相談の日時を約束しておくといよいでしょう。

13. 学校でのトラブル相談で「学校に一度見にきてくださいよ！」と言われたけれど行くべき？

<メンターより> 私達も相談者と同じ親ですから、正直お勧めしません。親の立場で学校側に交渉することは本来メンターの業務ではないと思います。保育園の先生、療育の先生など相談者のお子さんを以前から見ていた専門家の方にお問い合わせの方がいいと思います。「そんなことできません」とシャットアウトするのではなく、やんわりとお断りする一方でそのような提案をしてみてもいいかがでしょうか。その上で「後日また教えて下さい」と次回につなげるのもいいかと思えます。相談者の周りにお子さんに関わった専門家がいなかった場合はリソースに基づいて教育センター、教育相談室などをご紹介するのはいいかがでしょうか。



<インストラクターより> 行ってあげたい気持ちや、行かないといけないう不安を抑えて、行くことは避けましょう。これはメンターの役割ではありません。伝えにくいかもしれませんが、行けない旨を説明しましょう。「その日は行けない」、「行ってあげたいけど…」というような曖昧な断り方は、相手にいつか行ってもらえると思わせてしまうかもしれません。「私は話を聞くことはできるけど、行くことはできません。ごめんなさい」などきちんと伝える必要があります。

⑦今後のお知らせ

1. 平成 23 年度の応用研修Ⅲは平成 24 年 2 月 25 日、26 日です。すでにお申し込みをいただいているみなさま、ありがとうございます。事前のご案内は 12 月にお送りする予定です。県外からの参加者も順次募集していますので、愛知県のメンターを優先する関係上、参加の可否を事務局までお知らせいただけますようお願い致します。
 2. 12 月の茶話会、1 月の事例検討会の申込もまだ可能です。ご希望の方は事務局までお知らせ下さい。
 3. 10～12 月の活動報告書提出の締め切りについては、1 月 13 日です。期日までにご連絡を御願い致します。
- ★ 1 月 16 日の事例検討会(講師:船橋先生)の会場はウィンクあいち1009会議室に決まりました。参加予定のメンターさんはお間違えのないようご注意ください。
- ★ 2 月 25 日、26 日の応用研修のテーマは「ストレスマネジメント」と「成年後見」に決まりました。26 日の成年後見については一般公開としますので、ペアレントメンターさん以外でもご参加いただけます。公開講座のご案内は 12 月下旬を予定しています。

第10回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

メンターの皆様、いつも熱心なご活動の報告をいただき、ありがとうございます。スケジュールを見ても、舗装団の報告を見ても、その密度の濃さに感心するばかりです。本当にお疲れ様です。

さて通信の中でもご報告させていただいたように、ついに「愛知県ペアレントメンター等活動推進連絡会」が設立されました。この連絡会の設立の際に自分から少しお話しをさせていただいたのが、「新しい公共」という思想です。これについては、内閣府が作っているウェブサイト <http://public.dpj.or.jp/about/> があるのですが、そこには「新しい公共」の説明として、「これまでの行政により独占的に担われてきた「公共」を、これからは市民・事業者・行政の協働によって「公共」を実現しなければなりません。これが「新しい公共」の考え方です。」と書かれています。

いろいろな機会に強調しているように、自分はメンターの活動は行政や専門家によるサービスの肩代わりではないと思っています。行政など「官」によるサービスは、その普遍性、公平性、提供されるサービスの規模など代えがたい点がありますが、一方で現代の多様な価値観やそれぞれの家庭や地域の事情に細やかにあわせていくことには、どうしても難しい点がでてきます。大きな施策によるサービスの対象となるようなニーズから外れた、細やかなサービスこそが、「民」でなければ、あるいは「当事者」に近い立場でなければ提供しにくいサービスではないでしょうか。

逆から考えると、ペアレントメンターが最も力を入れて提供していくべき支援というのは、その必要性に普通の行政担当者や専門家が気づかないようなもの、あるいは気づいてもどのように支援すればよいかわからないものになっていくのだと思います。つまりペアレントメンターは新しいニーズの発見者であり、今後も新しいサービスの提供者でありつづけるのだと思います。

その時、メンターの主体性が重要となります。連絡会の中でも、どんどん新しいニーズやそれに対する取り組みを紹介していただきたいと思ひますし、その時にメンターの方々に必要となる行政や専門家の援助を求めていただければと思います。またメンターの養成や研修についてもどのような地域でどのように行っていくべきなのか、現場での実感に即してご意見をいただき、それを研修計画に反映していけるとよいでしょう。そしてメンターの活動を通じて、多くの親や当事者の方たちからの支援者への期待として把握されたことを、支援者研修への参加などの機会を通してフィードバックしていくことも、これからのメンターの大きな役割になっていくのではないかと考えています。

メンターと行政、専門家の「協働」の場として用意された連絡会を、うまく活用していただければ、我々にとってもそれ以上の喜びはありません。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 吉川 徹

<編集後記>

暑い日々が続いていたかと思うと、一気に秋らしくなってしまう体調を崩された方もいらっしゃるのではないでしょうか。加藤もガラガラ声になり実の母にも電話で「加藤さんですか？」と言われる始末でした。すっかり季節は冬に突入し始めました。みなさまお体には十分ご留意ください。

今回の10号を作り始めた時は、まだ「暑い、暑い」と言っている時期でした。なぜだかあっという間に12月が目前に迫っています。先日なんとなくカレンダーを見たら、「冬休みが長いじゃないか!」と気づきました。隣に居て叫びを聞いた娘は「ラッキー!♪」『・・・・ラッキーじゃない・・・・』学校に通っている子どもを持つ親たちの苦悩のスケジュール調整がこれから始まります。気づくのが遅れた分だけ必死です。どうぞよいクリスマスを。

発行者：愛知県自閉症協会（つぼみの会）

〒460-0013 名古屋市中区上前津2-14-25 上前津中央マンション202号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: tubomi-aa@nifty.com

編集担当者：支援部 加藤 香